

99年度最新就職状況

～厳しさ今年も変わらず～

薬学部	平成十一年	平成十年
男子	57.5%	56.4%
女子	69.3%	67.2%
生命科学部	平成十一年	平成十年
男子	74.3%	85.7%
女子	66.7%	79.4%

(十月十五日現在)

希望者は、卒業予定者百六十名中八十名だった。今年度の就職内定率は昨年度のこの時期より約十二パーセント減少し、七十バーセントとなっている。今年度の特徴として食品系企業への内定者が昨年より大幅に減少し、逆に製薬企業への内定者が増加したことが挙げられる。

食品系の企業への内定者が減少したのは、就職希望者が少なかったわけではなく、企業の採用数が昨年の六・七割と少なくなったためである。

それが昨年より大幅に減少し、それに加え、食品業が不況に逆に製薬企業への内定者が増加したことから他学部よりも多くの人が流れ、

就職活動を強いられている。現状はどうなっているのだろうか。

平成十一年度の就職状況が発表された。長引く不況の影響で、学生は今年も厳しい就職活動を強いられている。現

状はどうなっているのだろうか。

希望者は、卒業予定者百六十名中八十名だった。今年度の就職内定率は昨年度のこの時期より約十二パーセント減少し、七十バーセントとなっている。今年度の特徴として食品系企業への内定者が

薬学部

薬学部の就職状況はほぼ内定者が多いのは薬局である。薬局の場合、普通の薬局だけでなく調剤薬局やドラッグストアも含まれる。次に多い就職先は製薬企業だが、一口に製薬系といっても様々な職種がある。この中で、男子はMRに集中し、女子は研究・開発・学術系に分散している。

本学部の現段階での就職状況について薬学部就職担当の土屋晴嗣教授からコメントを頂いた。

「今、就職を考える上で学生

は非常に厳しい状況にあります。就職活動に対する意識が非常に低い。特に男子の意識が低いようだ。これは就職率が実際には現れており、就職を考えている学生は、早い時期から将来像を見据え、積極的な姿勢で就職活動に臨んで欲

しい。

例年のことだが、この時期

の学生の就職に対する意識が

非常に低い。

特に男子の意識が

低いようだ。

これは就職率

が実際には現れており、就職を考えている学生は、早い時期から将来像を見据え、積極的な姿勢で就職活動に臨んで欲

しい。

例年のことだが、この時期

の学生の就職に対する意識が

非常に

